

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600085		
法人名	社会福祉法人 ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年2月12日	外部評価確定日	平成27年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の尊厳を念頭に置き、「自分らしくほがらかに」の理念を、職員皆で共有し、お互いの意見を尊重しながら、理念の実現という大きな目標にむかってチーム一丸となり日々のケアに当たっています。職員は、自己研鑽の意識が高く、様々な研修に積極的に参加しており、知り得た知識は、全職員で共有し、認知症ケアの質の向上に活かしています。また、職員も環境の一部であることを理解し、常に静かな環境作りに努め、さりげないサポートを心がけています。当ホームは、自然環境にも恵まれており、季節ごとに咲く花や、カモが泳ぐ湖を臨むことができ、四季折々の様々な風景を楽しみながら、季節の移ろいを肌で感じることができます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>JR北方駅より山方向に少し入った静かな環境の中、大きなため池に沿って建つホームである。湖の様なため池の周囲は緑豊かで、広々としており、梅・桜・杏・紫陽花など四季折々の花木や草花・木々に囲まれ、池には鴨をはじめと多くの野鳥が集まっている。ホームのリビングは池側に広く開放され、四季の移ろいや野鳥の様子などをホーム内から見る事ができ、入居者の目を楽しませている。隣接して、経営母体である特別養護老人ホームや介護事業所が並び建ち、法人内で在宅介護支援センターの事業委託を受けている事もあり、地域における認知症介護の拠点となっている。また、職員研修にも力を入れており、定例のグループホーム会議後や全体会議後に勉強会を開き、グループホーム協会や県の研修・その他案内がきた外部研修など研修の機会を最大限活用して職員のスキルアップにつなげている。地域住民との交流も大切にしており、地域の催しには積極的に参加し、事業所の催しには地域住民の参加を呼び掛けている。ホームのウッドデッキで催されるお月見会を利用して、近隣住民にホーム内を見学して頂くなど、地域に知っていただく取り組みもなされている。「住み慣れた地域の中で住み続けたい。」という入居者の願いを、管理者自らが植栽し手入れをしている花々で癒しているホームである。</p>

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくほがらかに」の理念を、管理者、職員で共有し、ケアを提供する際の道標と捉え、お互いの意見を尊重し、実現を目指しチームで日々のケア当たっている。入居者様の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごして頂くことを念頭に、毎日の朝礼での唱和を継続している。	「自分らしくほがらかに」の理念を、管理者、職員で共有し、ケアを提供する際の道標と捉え、お互いの意見を尊重し、実現を目指しチームで日々のケア当たっている。入居者様の権利や尊厳が損なわれることなく、自分らしくほがらかに、過ごして頂くことを念頭に、毎日の朝礼での唱和を継続している。	住み慣れた地域の中で、「自分らしくほがらかに」住み続けるという理念を作っている。毎朝理念を唱和して、理念に沿ったケアの確認を行っており、静かな環境の中でほがらかな空間作りに努めている。職員は尊敬の念を持って入居者に接し、優しい言葉かけに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年開催されるお月見会や納涼祭に、地域の方の参加をよびかけ、楽しい交流ができています。入居者様が慣れ親しんだ地域の老人会や敬老会に参加するなど、なじみの方たちとの交流の場も設けている。また町が開催するトロッコレースや盆踊り大会にも出かけ、地域との共生を大事にしている。	毎年開催されるお月見会や納涼祭に、地域の方の参加をよびかけ、楽しい交流ができています。入居者様が慣れ親しんだ地域の老人会や敬老会に参加するなど、なじみの方たちとの交流の場も設けている。また町が開催するトロッコレースや盆踊り大会にも出かけ、地域との共生を大事にしている。	事業所開設時に住民説明会を重ねた経緯があり、地域住民や老人会とのつながりが深い。ゴミ捨てや散歩などの日常生活を通して、近所の人と自然にあいさつを交わす関係ができています。盆踊りや敬老会などの地域の催しに出かけたり、お月見会や納涼祭など事業所での催しに地域住民が訪れる等の相互訪問交流がなされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の取り組みの一環として、老人会や地域の方々に、介護予防教室を開催したり、ボランティア交流会において認知症やグループホームのについての説明を行い、理解を深めていただくよう取り組んでいる。また、運営推進会議にて、認知症についての啓発を行っている。	法人の取り組みの一環として、老人会や地域の方々に、介護予防教室を開催したり、ボランティア交流会において認知症やグループホームのについての説明を行い、理解を深めていただくよう取り組んでいる。また、運営推進会議にて、認知症についての啓発を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2ヶ月間の全体的な動き等を報告し、意見や避難訓練への助言、市の新たな取組や地元の情報等活発な話し合いがされており意見や助言はサービスに活かしている。お月見会の際には会議後に、入居者様や他事業所との交流の場を設け、ホーム全体の雰囲気を見て頂いている。	運営推進会議では、2ヶ月間の全体的な動き等を報告し、意見や避難訓練への助言、市の新たな取組や地元の情報等活発な話し合いがされており意見や助言はサービスに活かしている。お月見会の際には会議後に、入居者様や他事業所との交流の場を設け、ホーム全体の雰囲気を見て頂いている。	運営推進会議は、家族や区長・民生委員・行政職員の参加で開催され、意見交換や情報交換がなされている。出された意見や要望・質問・情報は検討し、避難訓練で指摘された防火用水確保や消火栓増設につなげるなど運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を必要とする利用者様の状況は、常に市担当者に報告を行い、安心サポートとの連携もとりながら生活に支障の出ないようにしている。また、分からないことや問題が出た時は、市役所などへ連絡をとったり、出向いて協力関係を築いている。	公的制度を必要とする利用者様の状況は、常に市担当者に報告を行い、安心サポートとの連携もとりながら生活に支障の出ないようにしている。また、分からないことや問題が出た時は、市役所などへ連絡をとったり、出向いて協力関係を築いている。	行政職員が運営推進会議の委員である事から、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、何でも相談できる関係ができています。また、隣接している母体法人が市から在宅介護支援センターの事業委託を受けており、市との協働関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する行政指導や見解、法制度を熟知し、仮に生命の危険上拘束せざるを得ない状況になったとしても身体拘束の三原則を遵守し、介護の専門家として入居者様生命との尊厳の両立を最大限実現できるよう配慮している。	身体拘束に関する行政指導や見解、法制度を熟知し、仮に生命の危険上拘束せざるを得ない状況になったとしても身体拘束の三原則を遵守し、介護の専門家として入居者様の生命と尊厳の両立を最大限実現できるよう配慮している。	契約時に入居者と家族に事業所の方針を説明し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。職員は、身体拘束に関する研修を受け、言葉かけには最大限の注意を払うなど、言葉による精神的な苦痛のない支援を心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、法人勉強会や研修において、入居者様の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話合う機会を、設けている。必要ときは、家族と話し合いを持ち、認知症の症状の理解を求めたり、職員は、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、法人勉強会や研修において、入居者様の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について、学び話合う機会を、設けている。必要ときは、家族と話し合いを持ち、認知症の症状の理解を求めたり、職員は、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修等で学んでおり、学んだ事は、チームで共有し、必要性がある時は本人と関係者で十分話し合い成年後見人制度の利用などを支援している。	管理者や職員は「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修等で学んでおり、学んだ事は、チームで共有し、必要性がある時は本人と関係者で十分話し合い成年後見人制度の利用などを支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	通所や短期入所を利用して頂き、馴染みの関係が構築されることで、不安なくスムーズな入居に繋げている。契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得た上でやっている。解約は本人や家族が困らないよう今後のことを十分に話し合い納得を得ている。	通所や短期入所を利用して頂き、馴染みの関係が構築されることで、不安なくスムーズな入居に繋げている。契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても十分な説明に努め理解と納得を得た上でやっている。解約は本人や家族が困らないよう今後のことを十分に話し合い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多い。ご家族には面会時やサービス担当者会議時に意見や要望を聞き、年に1回アンケートを実施し、出た要望については改善後、文書にて報告をしている。また、第三者窓口について説明し掲示し、苦情受付箱を設置している。	入居者様からは、普段の会話の中から意見や要望を聞く機会が多い。ご家族には面会時やサービス担当者会議時に意見や要望を聞き、年に1回アンケートを実施し、出た要望については改善後、文書にて報告をしている。また、第三者窓口について説明し掲示し、苦情受付箱を設置している。	家族の面会時には必ず会って話し、情報交換や現状報告をしている。職員は、家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。また、年に1回家族アンケートを実施し、要望を聞く機会を設けている。重要事項説明書に苦情相談窓口・外部苦情受付機関、苦情相談に対する対応を明記し、家族に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月法人の各部署責任者会議やグループホーム会議で、職員から意見や提案があっており、代表者や管理者は、その内容を検討して可能な限りできるだけ意見や提案を運営に反映させるようにしている。	毎月法人の各部署責任者会議やグループホーム会議で、職員から意見や提案があっており、代表者や管理者は、その内容を検討して可能な限りできるだけ意見や提案を運営に反映させるようにしている。	毎月開催するユニットカンファレンス・グループホーム会議・全体会議や面談を通して、代表者や管理者は、職員と話し、要望や意見を聞いている。管理者は主任・職員とよく話し、何でも言える関係ができています。職員は、積極的に要望や提案をし、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価と目標管理シートを職員全員に提出させており、個人面談も行っている。それに主任や管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善活かしている。	年2回自己評価と目標管理シートを職員全員に提出させており、個人面談も行っている。それに主任や管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。また、代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善活かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの、能力や力量を把握し、レベルに合わせた勉強会を開催し、ケアの実践につなげている。また老社協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。	職員一人ひとりの、能力や力量を把握し、レベルに合わせた勉強会を開催し、ケアの実践につなげている。また老社協やグループホーム協会の勉強会や発表会に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県認知症介護指導者を内部研修に招き、職員の認知症に対する知識を深めている。また、職員を外部研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には、声をかけ参加をしてもらい交流を深め、サービスの質の向上に努めている。	佐賀県認知症介護指導者を内部研修に招き、職員の認知症に対する知識を深めている。また、職員を外部研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には、声をかけ参加をしてもらい交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る前に、必ずご本人にお会いし、さりげない会話を通じて相互理解を深め、信頼関係を構築し、情報収集に努めている。情報は、全職員に伝え、共有することで、安心して過ごしてもらうよう関係づくりに努めている。	利用に至る前に、必ずご本人にお会いし、さりげない会話を通じて相互理解を深め、信頼関係を構築し、情報収集に努めている。情報は、全職員に伝え、共有することで、安心して過ごしてもらうよう関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等を傾聴し、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。	職員は、ホーム見学の際や、入居申し込みの際に、困っていること、不安なこと、要望等を傾聴し、家族の抱える思いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用ができるよう信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の情報を提供したり、紹介したりしている。	ご本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設の情報を提供したり、紹介したりしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意分野において、能力を発揮して頂き、長年培ってきた生活の知恵や手順等、助言して頂く事により、互いに助け合い生きがいを持って生活出来るよう、配慮している。	入居者様の得意分野において、能力を発揮して頂き、長年培ってきた生活の知恵や手順等、助言して頂く事により、互いに助け合い生きがいを持って生活出来るよう、配慮している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の希望により、誕生日に夕食に同席したり定期的に嗜好品を届けてもらう等、協力を頂きながら、共に支えあっている。入居当初は上手くいっていなかった家族様の関係性が円滑に行くよう支援し、定期的な外出や面会に繋がっている。	ご本人の希望により、誕生日に夕食に同席したり定期的に嗜好品を届けてもらう等、協力を頂きながら、共に支えあっている。入居当初は上手くいっていなかった家族様の関係性が円滑に行くよう支援し、定期的な外出や面会に繋がっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が入居前より続けてこられたコーラスや老人会への参加を継続し馴染みの関係や場所が途切れないよう支援している。また地元の夏祭りや敬老会に参加し再会の機会も設けている。	本人様が入居前より続けてこられたコーラスや老人会への参加を継続し馴染みの関係や場所が途切れないよう支援している。また地元の夏祭りや敬老会に参加し再会の機会も設けている。	契約時に入居者の情報収集を行っており、馴染みの人や場との関係・生活歴を把握し、一人ひとりの生活習慣や地域との接点・関係継続を大切に支援に努めている。行きつけの美容院利用や老人会参加、コーラスなどの活動に出かけられる入居者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段よりテーブルやソファで会話を楽しまれることは多いが、輪の中に入れない方には、スタッフがさりげなく間に入り、関係が円滑にいくように調整を行っている。	普段よりテーブルやソファで会話を楽しまれることは多いが、輪の中に入れない方には、スタッフがさりげなく間に入り、関係が円滑にいくように調整を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、面会や様子を伺いこれまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援をおこなっている。同一施設内に移られた方については、なじみの入居者様をお連れし、面会の機会を設けている。	利用が終了しても、面会や様子を伺いこれまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人・家族への、サポートの支援をおこなっている。同一施設内に移られた方については、なじみの入居者様をお連れし、面会の機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様との関わりを大切にしながら、思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動等から発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。家族の面会の際に意向を伺い希望に沿ったサービスの提供を心掛けている。困難な場合は、できるだけ本人本位になるよう、家族に協力を依頼している。	入居者様との関わりを大切にしながら、思いや意向を聞かせて頂き、表情やしぐさ、行動等から発せられるサインも見逃さないよう把握に努めている。家族の面会の際に意向を伺い希望に沿ったサービスの提供を心掛けている。困難な場合は、できるだけ本人本位になるよう、家族に協力を依頼している。	職員は、入居者が「自分らしくほがらかに」過ごせる様な支援に努めている。何を言いたいのか、何をしたいのか、具合の悪い所がないか等本人の意向を汲み取る様に心がけている。早期発見・早期対応が大切と考え、特変があればすぐに担当者会議を開き対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、ご本人やご家族にお会いし、生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過を尋ねている。フェースシートや申し送りノートを活用し、チームで情報を共有しており、入居後もご本人やご家族とのコミュニケーションを通じて、常に情報収集に努め、ご本人の思いを大事にしている。	利用前に、ご本人やご家族にお会いし、生活歴や環境、馴染みの暮らし方やサービス利用の経過を尋ねている。フェースシートや申し送りノートを活用し、チームで情報を共有しており、入居後もご本人やご家族とのコミュニケーションを通じて、常に情報収集に努め、ご本人の思いを大事にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、職員は、出勤時に必ず目を通し現状把握に努めている。また、状態の変化があった時等は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアに繋げている。定期的に長谷川スケールを実施しており、有する能力等の把握に努めている。	個別のケースに一日の過ごし方、心身状態や有する力等を記入し、職員は、出勤時に必ず目を通し現状把握に努めている。また、状態の変化があった時等は、申し送りノートや口頭でも報告し情報を共有しケアに繋げている。定期的に長谷川スケールを実施しており、有する能力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、職員、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。本人がその人らしく、より良い生活を送って頂くための意見やアイデアを提案し、介護計画を作成している。随時個別の、カンファレンスを行い、ケアの統一を図っている。	ご本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、職員、主治医の意見を踏まえ、サービス担当者会議を開催している。本人がその人らしく、より良い生活を送って頂くための意見やアイデアを提案し、介護計画を作成している。随時個別の、カンファレンスを行い、ケアの統一を図っている。	入居者本人や家族から要望を聞き、本人・家族の希望などを汲み取った具体的な介護計画が立てられている。介護計画書は長期目標・短期目標・サービス内容が分かりやすく書かれている。3カ月毎に評価が行われ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録や申し送りノートに記入し、毎日出勤時に目を通し、申し送りなども行いチーム間で、情報の共有に努めている。また、詳細については施設支援介護経過を記入し、モニタリングを実施後、ケアプランの見直しに活かしている。	入居者様の日々の様子やケアプランに基づく実践や気づきを個別ケース記録や申し送りノートに記入し、毎日出勤時に目を通し、申し送りなども行いチーム間で、情報の共有に努めている。また、詳細については施設支援介護経過を記入し、モニタリングを実施後、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況や、その時々ニーズに対応するため、双方で十分な話し合いを行い意向に添った柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人やご家族の状況や、その時々ニーズに対応するため、双方で十分な話し合いを行い意向に添った柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの積極的な受け入れをしており、定期的に話し相手になって頂き、大掃除等も協力して下さっている。高校生のボランティアも受け入れており、交流の場を設けている。	地域ボランティアの積極的な受け入れをしており、定期的に話し相手になって頂き、大掃除等も協力して下さっている。高校生のボランティアも受け入れており、交流の場を設けている。	/	
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、受診が困難な場合は、ホームより受診同行を行っている。医療機関との情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	受診は、本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、受診が困難な場合は、ホームより受診同行を行っている。医療機関との情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	入居者や家族の意向を大切に、入居前のかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は、家族の送迎を基本としているが、職員対応もなされている。家族送迎時や職員送迎時、どちらも受診結果は適切に説明や報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師は、常勤で24時間連絡可能になっており、定期的に看護記録を記載している。介護職員は、入居者様の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、看護師に報告、相談し医師との連携を取りながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	当ホームの看護師は、常勤で24時間連絡可能になっており、定期的に看護記録を記載している。介護職員は、入居者様の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、看護師に報告、相談し医師との連携を取りながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	/	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、入院前の病状および身体状況を、情報提供表に記載し提供している。また早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者様が、安心して治療が受けられるように、日頃から病院関係者との関係作りにも努めている。	入居者様が入院した際は、入院前の病状および身体状況を、情報提供表に記載し提供している。また早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者様が、安心して治療が受けられるように、日頃から病院関係者との関係作りにも努めている。	/	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応の指針や看取りにかかわる指針を説明している。重症となられた場合は、ご本人と家族の希望をできるかぎり尊重し、当ホームですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療との連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合における対応の指針や看取りにかかわる指針を説明している。重症となられた場合は、ご本人と家族の希望をできるかぎり尊重し、当ホームですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療との連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」「看取りに関する指針」があり、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。まだ看取りはないが、医療機関との連携体制ができており、家族と主治医・事業所は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応について定期的に勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応について定期的に勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜間の想定で、避難訓練を行い、行政、区長、近隣の住民、消防団、婦人会に協力をして頂き、地域と一体になった避難訓練を実施している。終了後は、反省会を実施し、意見は次回の訓練に生かしている。法人の安全管理委員会に職員が所属し、防災知識向上への取り組みがなされている。	年2回昼夜間の想定で、避難訓練を行い、行政、区長、近隣の住民、消防団、婦人会に協力をして頂き、地域と一体になった避難訓練を実施している。終了後は、反省会を実施し、意見は次回の訓練に生かしている。法人の安全管理委員会に職員が所属し、防災知識向上への取り組みがなされている。	年2回夜間消防訓練と日中の避難訓練・消火訓練・通報訓練を行っている。訓練には入居者や近隣住民・消防団員も参加し、避難した入居者の見守りに近隣住民があたるなど、役割分担に沿った確認もなされている。地域住民や消防団との協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけることを継続している。	入居者様に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者様と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけることを継続している。	個人情報の取り扱いは重要と認識しており、契約時に家族等に使用条件を詳しく細かく説明し、同意を得ている。個人が特定できる写真や映像などは許可を得た入居者であっても、外部に出す場合はその都度家族に確認をとっている。職員は、入居者に対し、その人のペースに合わせた本人本位の対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や思いの表出ができるよう、雰囲気づくりに努めている。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。また、散歩に出られたり、本を読まれたり、自分のペースで過ごされることを大切に、出来るだけ希望にそって支援している。	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。また、散歩に出られたり、本を読まれたり、自分のペースで過ごされることを大切に、出来るだけ希望にそって支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望により、行きつけの美容院に連れていったり、愛用品のトリートメントや化粧品がなくなった場合は、ご家族に連絡し、持ってきて頂いている。各イベントごとに化粧品を購入し、メイクを楽しまれたり、自分の好みの洋服をカタログやお店で選び、購入されている。	ご本人の希望により、行きつけの美容院に連れていったり、愛用品のトリートメントや化粧品がなくなった場合は、ご家族に連絡し、持ってきて頂いている。各イベントごとに化粧品を購入し、メイクを楽しまれたり、自分の好みの洋服をカタログやお店で選び、購入されている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活歴を大切に、朝食にトーストやコーヒーを提供し、誕生日には希望により夕食やお好きなメニュー、行事には特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲んでいる。台所仕事がお好きな方には、配下膳や、お盆拭き等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。	生活歴を大切に、朝食にトーストやコーヒーを提供し、誕生日には希望により夕食やお好きなメニュー、行事には特別なメニューを用意し、職員と共に食卓を囲んでいる。台所仕事がお好きな方には、配下膳や、お盆拭き等を職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。	外部食材業者が立てた献立を利用しているが、選択メニューの部分においては、入居者同士で相談しながら好きなメニューが選べるなど、入居者の好みに合った献立も取り入れている。食事は、職員も一緒に同じものを食べ、入居者・職員は楽しい会話をしながら食事時間を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に基づき個々の状態や力に合わせた食事量や食事形態を工夫し提供している。水分をあまり好まない方は、ゼリーや好みの飲み物を提供し、一日の水分量の確保に努めている。食事や水分量は、毎日記録に残し、健康状態の目安になっている。水分量は医師に適切な量を確認し支援している。	献立に基づき個々の状態や力に合わせた食事量や食事形態を工夫し提供している。水分をあまり好まない方は、ゼリーや好みの飲み物を提供し、一日の水分量の確保に努めている。食事や水分量は、毎日記録に残し、健康状態の目安になっている。水分量は医師に適切な量を確認し支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯や自歯のブラッシングをしてもらい、磨き残しや舌の汚れは、ガーゼを使用したり、一部介助することで、誤嚥性肺炎の予防や清潔保持ができています。夜間帯は、職員サイドで預かり義歯洗浄剤に浸け管理している。また、必要に応じて、訪問歯科を利用して、口腔の管理に努めている。	毎食後、義歯や自歯のブラッシングをもらい、磨き残しや舌の汚れは、ガーゼを使用したり、一部介助することで、誤嚥性肺炎の予防や清潔保持ができています。夜間帯は、職員サイドで預かり義歯洗浄剤に浸け管理している。また、必要に応じて、訪問歯科を利用して、口腔の管理に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、不安軽減のため排泄用品、用具の選定、言葉かけや定時のトイレ誘導を行い、排泄の失敗の減少に努めている。また、見守り、一部介助を行うことで、安心して排泄して頂けるよう支援している。排泄チェック表に記録し、排便コントロールに活かしている。	個々の排泄パターンの把握に努め、不安軽減のため排泄用品、用具の選定、言葉かけや定時のトイレ誘導を行い、排泄の失敗の減少に努めている。また、見守り、一部介助を行うことで、安心して排泄して頂けるよう支援している。排泄チェック表に記録し、排便コントロールに活かしている。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。少しでも快適に居られるように超極薄パッドを利用したり、日中はなるべく布団で過ごせる様に支援している。時間や態度・様子を見ながら誘導し、なるべくトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにホームの畑で採れたさつま芋を提供したり、水分を多めに摂ってもらい便秘予防に努めている。また、散歩や軽運動を促しており、慢性の便秘の方には、ヨーグルトを提供したり、投薬にて対応し医師に相談の上、服薬のコントロールを行っている。	おやつにホームの畑で採れたさつま芋を提供したり、水分を多めに摂ってもらい便秘予防に努めている。また、散歩や軽運動を促しており、慢性の便秘の方には、ヨーグルトを提供したり、投薬にて対応し医師に相談の上、服薬のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーに配慮した個室になっており、安心して、ゆっくりと入浴されている。湯温や手順等一人ひとりの希望に合わせており、身体リスクのある方には、安全面を考慮し福祉用具を使用している。入浴をお断りされる方については、無理強いせず別日に対応している。	プライバシーに配慮した個室になっており、安心して、ゆっくりと入浴されている。湯温や手順等一人ひとりの希望に合わせており、身体リスクのある方には、安全面を考慮し福祉用具を使用している。入浴をお断りされる方については、無理強いせず別日に対応している。	入浴は個室で、夏場週3回、冬場週2回を目安としているが、入浴要望があればできる限り対応している。入浴を拒まれる場合は無理強いせず、時間や対応を変えたり声掛け等で入浴を支援している。下半身シャワーや清拭・足湯など、必要に応じた対応もなされている。入浴しない日でも下着は毎日取り換え、清潔に保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望に応じて、居室や談話室等でくつろがれたりしている。夜は、居室でテレビを視聴後に就寝されたり、仲間同士で居室で会話後就寝されている。また、室温調整を随時行い、足元に湯たんぽを置いたり、愛用品の寝具で眠られている。不眠時は、不安軽減の援助を行うことで安心されている。	個々の体調や希望に応じて、居室や談話室等でくつろがれたりしている。夜は、居室でテレビを視聴後に就寝されたり、仲間同士で居室で会話後就寝されている。また、室温調整を随時行い、足元に湯たんぽを置いたり、愛用品の寝具で眠られている。不眠時は、不安軽減の援助を行うことで安心されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況や効能、副作用等を記載し、いつでも確認ができるようになっており、一人ひとりが服用されている薬について理解しており、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を確認の上、服用してもらっている。	個別の服薬状況や効能、副作用等を記載し、いつでも確認ができるようになっており、一人ひとりが服用されている薬について理解しており、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を確認の上、服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑巾を縫ったり、ぬり絵をしたり、洗濯物たたみや居室や廊下の掃除等、一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしてもらおうよう支援している。また、近所を散歩したり、買い物に出かけられたり、月ごとにある行事に楽しんで参加されている。	雑巾を縫ったり、ぬり絵をしたり、洗濯物たたみや居室や廊下の掃除等、一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごしてもらおうよう支援している。また、近所を散歩したり、買い物に出かけられたり、月ごとにある行事に楽しんで参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ買い物を希望されたら一緒にでかけたり、外食を希望されたら、回転寿司に出かけたり、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、ご本人の思いをご家族にお伝えし、外食の機会を設けて頂いたりしている。	散歩やドライブ買い物を希望されたら一緒にでかけたり、外食を希望されたら、回転寿司に出かけたり、できる限り要望にお応えできるよう努めている。また、ご本人の思いをご家族にお伝えし、外食の機会を設けて頂いたりしている。	リビングに面して広い大きなウッドデッキが有り、テーブルとイスが設置され、天気の良い日は外気浴を楽しんでいる。隣接事業所敷地内は広く、四季折々の花が咲いており、入居者の散歩コースになっている。ホームの周りは風光明媚且つ自然がいっぱいであり、車イス利用の入居者でも日常的に戸外に出られる環境である。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(うぐいす) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(ひばり) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動や移動販売にて、お好きな物を購入されている。その際は、御自分で支払いもされる。また、地区の文化サークルに所属しておられ、毎週の練習に行かれたり、美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。	ご家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、苑外活動や移動販売にて、お好きな物を購入されている。その際は、御自分で支払いもされる。また、地区の文化サークルに所属しておられ、毎週の練習に行かれたり、美容室にカットや毛染めに行かれ、有効にお金を使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、友人や家族様に電話をかけて頂いている。また、毎月のきたがた便りに色を塗り、家族様へのメッセージを直筆にて書かれている。便りには、日常生活や行事等の写真も添えている。年賀状も書かれている。	希望により、友人や家族様に電話をかけて頂いている。また、毎月のきたがた便りに色を塗り、家族様へのメッセージを直筆にて書かれている。便りには、日常生活や行事等の写真も添えている。年賀状も書かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が作成された干支の貼り絵や運動会の賞状、食事のメニュー等を配置し、季節感や生活感を大事にした設えを心掛けている。温度、湿度や照明等の調整を細めに行い、居心地のいい環境づくりへの配慮をしている。職員も環境の一部であることを意識し、静かな環境作りに努めている。	入居者様が作成された干支の貼り絵や運動会の賞状、食事のメニュー等を配置し、季節感や生活感を大事にした設えを心掛けている。温度、湿度や照明等の調整を細めに行い、居心地のいい環境づくりへの配慮をしている。職員も環境の一部であることを意識し、静かな環境作りに努めている。	居間兼食堂ホールは明るく広く、机やソファなどが置かれ、入居者は思い思いの場所でゆったりと居心地よく過ごしている。午前と午後の定時に天窓を開けて換気を心がけている。廊下の端隅にテーブルとソファが置かれ、入居者が気の合った人と景色を見ながら会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やデッキのベンチや談話コーナーのソファにて独りでテレビを見たり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間をお過ごしになられている。	玄関やデッキのベンチや談話コーナーのソファにて独りでテレビを見たり、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、話をしたり、ソファに座りながら、各自ゆっくりと穏やかな時間をお過ごしになられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、TVや仏壇、馴染みの品物を持ってきて頂き、自宅より近い環境で、安心して過ごしてもらような工夫をしている。写真やお孫様からの絵などを飾っている。自室に仲間を招き茶菓子をたべながら、談笑したり、TVをみて過ごしたり、本を読まれたりと居心地のよい場所となっている。	本人や家族と相談し、TVや仏壇、馴染みの品物を持ってきて頂き、自宅より近い環境で、安心して過ごしてもらような工夫をしている。写真やお孫様からの絵などを飾っている。自室に仲間を招き茶菓子をたべながら、談笑したり、TVをみて過ごしたり、本を読まれたりと居心地のよい場所となっている。	居室は広く、洗面台付きである。職員は、家族へ、自宅で使い慣れた馴染みの品などの持ち込みを勧めている。自作のぬいぐるみや手芸品・壁飾りを壁いっぱい飾っている入居者もあり、その人らしく心地よく過ごせる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残された能力を見極め、道標や標示を掲示することで、出来るだけ混乱がないように工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。	本人の残された能力を見極め、道標や標示を掲示することで、出来るだけ混乱がないように工夫している。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない